

『ハチ刺症とアレルギー』

暑い季節になると増えてくるのがハチ刺症です。

ヒトを刺すハチは、主にミツバチ、スズメバチ、アシナガバチの3種類です。

刺されると、強い痛みとともに皮膚が赤く腫れ、水疱になることもあります。

こうした症状は自然に良くなることがほとんどで、初めて刺された場合はそれほど心配することはありませんが、2度目に刺された場合は要注意です。

【ハチアレルギー】

1度刺されて体内に抗体ができると、2度目以降に刺された時にアレルギー反応が現れることがあります。全身のかゆみや発疹、顔の火照り、むくみ、嘔気などが現れます。このアレルギー反応が短時間で全身にあらわれ、動悸、呼吸困難、血圧低下などを来すことを「アナフィラキシー」と呼び、症状が重篤でショック状態になると「アナフィラキシー・ショック」と呼ばれます。とくにスズメバチ、アシナガバチは注意が必要です。

【治療】

1、応急処置

傷口を水でよく洗い流した後、冷やす。針が残っていたら抜く。

抗ヒスタミン剤の内服。ステロイド軟膏を塗る。

2、アレルギーに対する治療

1) 軽症の場合

皮膚、粘膜症状に対しては、抗ヒスタミン剤の内服、注射。

呼吸器症状に対しては、気管支拡張薬の内服、吸入。

2) 中等度～重症の場合

副腎皮質ステロイド、アドレナリン（エピネフリン）注射

アナフィラキシー・ショックの場合はただちに救急車を呼ぶこと。

【予防】

ハチが多い場所で作業する際は、顔面を保護する「防蜂網」や「防護手袋」を使用しましょう。過去にアナフィラキシー・ショックを起こしたことがある、もしくは起こす危険性があると思われる場合は、緊急時に備えてアドレナリン自己注射薬（エピペン）を常に携帯しておくといよいでしょう。

